

## 平成30年度 山形県看護師等確保推進会議 議事概要

◎ 日 時：平成30年11月29日（金）14：00～16：00

◎ 場 所：山形県自治会館 2階201会議室

◎ 出席者：（委員）22名（総合支庁）4名（事務局）5名

### 1 開 会

### 2 あいさつ（阿彦 健康福祉部医療統括監）

### 3 報 告

（1）平成29年度看護師等確保対策の実績及び平成30年度事業について

[資料1] [資料2] [資料3]

（2）各関係機関の県内定着に向けた取組みと課題について（各学校養成所・各病院）

[資料4] [資料5]

（4）各総合支庁の看護師確保の取組み

[資料6]

### 4 協 議

（1）今後の「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」延長について [資料7]

・「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」については、新たな看護職員の需給見通しの策定スケジュールに合わせ、平成31年度まで延長することとし、H31年度においては、新たな看護職員の需給見通しの策定と併せて、数値目標の設定などサポートプログラムの必要な見直しを行うことを説明。一同了承を得る。

（2）平成31年度の看護師確保対策について [資料8]

・「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」主要施策について「学生の確保定着」「キャリアアップ」「離職防止」「再就業促進」の4本柱の施策について方向性と具体的施策(案)を説明。

・新規事業として、山形県看護職員需給見通しの策定、県外進学者のUターンに係る交通費などの経費の一部支援、特定行為に係る看護師の研修制度の普及に向けた取組みを説明。一同了承を得る。

## 委員からの意見

●：委員    ○：事務局

● (山形大学医学部小林副学部長 (兼) 看護学科長)

看護師等学生の修学資金について、募集が80人に対し希望者が多いということであるが、募集人数を増やす、例えば一人に貸与する額を下げ人数増やすなど検討しているか。

○ (地域医療対策課富樫課長)

看護師等の需給見通しの調査結果を参考に、需給ギャップの数や内容の分析をしたうえで検討したいと考えている。修学資金を貸与した学生が、県内に定着しなかったということもあったため、申し込みの際に趣旨を周知していく必要があると考えている。

● (山形大学医学部佐藤医学科教授)

県外校というのは具体的にどの辺の県か、また、県内に就職しなかった9名の学校について傾向はあるか。

○ (地域医療対策課高山主査)

県内に就職しなかった9名は、山形出身で看護学校が県外であり、そのまま、看護学校がある地域に就職している。

● (山形大学医学部佐藤医学科教授)

奨学金制度を復活させた際に、定着率によりこの制度の存続が決まってくるという話になっていた。まだ、1, 2年しかたっていないため時期尚早ではあるが、県外の学校に行った方の戻る率が悪いのであれば、県内の学生にシフトするなど検討してはどうか。

○ (健康福祉部阿彦統括監)

この事業が復活して1, 2年であり、入学時に一年生から借りたという学生がまだ卒業に至らないため、もう少し様子を見てから評価し進めていきたい。

● (酒田市立酒田看護専門学校草刈副学校長)

県立保健医療大学の県内定着に向けて知事及び学長からの県内就職を勧める手紙について、内容や方法など教えてほしい。

○ (健康福祉部阿彦統括監)

毎年、入学者に知事からの入学のお祝いの言葉と卒後山形県での活躍をお願いするという内容の手紙を、全学科の入学生に渡している。

● (山形県看護協会小松常任理事)

訪問看護師が増えない状況がある。キャリアアップとして在宅医療等を支える看護職員の養成・確保に対する対策はあるか。

○ (地域医療対策課高山主査)

新規事業はないが、小規模施設従事者向けの研修会は引き続き継続し実施していきたい

と考えている。

● (山形大学医学部附属病院齊藤看護部長)

認定看護師に助成があるように、特定行為研修受講に対する支援を検討しているか。

また、助産師養成所が2校の大学でしかなく、看護学校卒業して助産師を目指す学生は県外に出ている現状がある。助産師の高齢化や地域による偏在も問題だが、養成についても考えてほしい。

○ (地域医療対策課富樫課長)

特定行為については、ニーズ調査の結果をふまえ、需給見通しの結果で行うサポプロ改定に合わせ支援についても合わせて検討していく。

助産師の養成についても、需給見通しの結果で必要数とのギャップがどの程度になるか見たうえで検討していきたい。

## 5 その他

・ (山形県労働局磯雇用均等室長)

働き方改革の動きと医療機関における今後の取組みについて医療勤務環境改善支援センターの利用について説明。

・ (山形県医師会神村副会長)

学生の県内定着について、知事存在が大きいと感じている。入学した時点で、知事のあいさつ文を配布するということであったが、最終学年に差し掛かった時に再度、山形県で働いてほしいと知事からの手紙などがあればいいのではないかと思う。

## 6 閉会